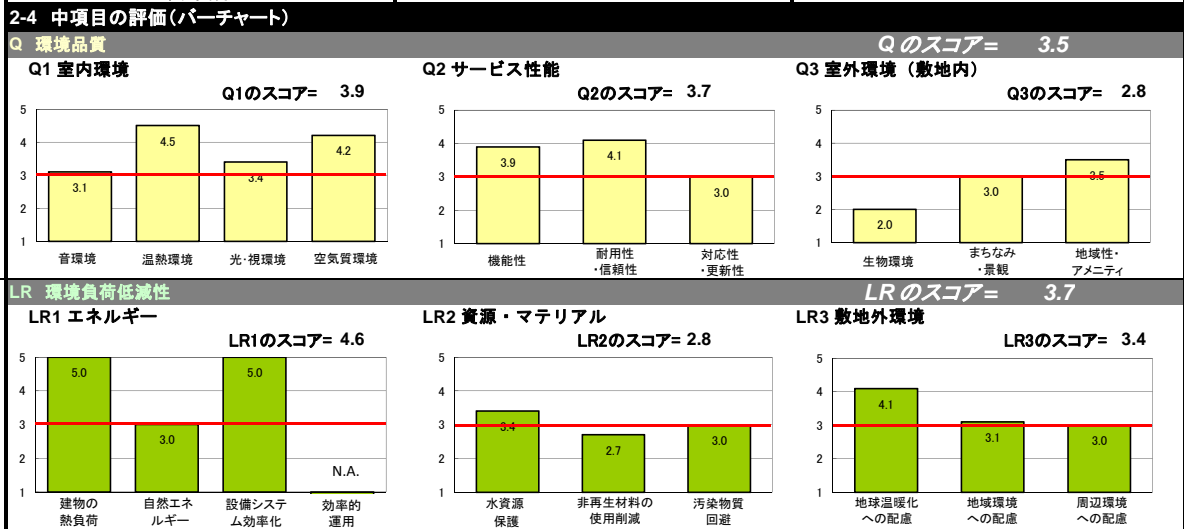
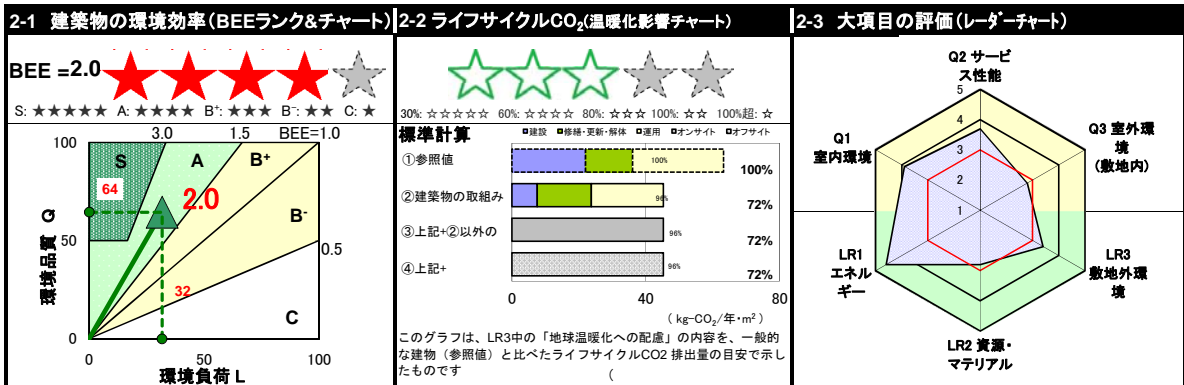


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サンシティ安城大東町	階数	地上15F
建設地	愛知県安城市大東町914.916.926-1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	205 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2014年10月23日
敷地面積	1,885.23 m <sup>2</sup>	作成者	林 信貞
建築面積	354.27 m <sup>2</sup>	確認日	2014年10月23日
延床面積	3,999.70 m <sup>2</sup>	確認者	岡田 よしー



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">59.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積}(\text{建築面積及び附属物面積})}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積}(\text{法定面積})}$  × 100

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 騒音</b>										
1	室内騒音レベル		L-45フローリング材使用	4.0	1.00	3.0	0.50			
2	設備騒音対策			-	-	3.0	0.50			
<b>1.2 遮音</b>										
1	開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30			
2	界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45	3.0	-	4.0	0.20			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1	室温			1.0	1.00	5.0	1.00			
2	負荷変動・追従制御性			-	-	-	-			
3	外皮性能		熱損失係数2.7以下	1.0	1.00	5.0	1.00			
4	ゾーン別制御性			-	-	-	-			
5	温度・湿度制御			-	-	-	-			
6	個別制御			-	-	-	-			
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-			
8	監視システム			-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1	昼光率		昼光率14.4%	3.0	0.30	4.0	0.50			
2	方位別開口			-	-	5.0	0.50			
3	昼光利用設備			3.0	1.00	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>										
1	照明器具のグレア			2.0	0.30	3.0	0.50			
2	昼光制御			-	-	-	-			
3	映り込み対策			2.0	1.00	3.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1	化学汚染物質		F☆☆☆☆使用	5.0	1.00	5.0	1.00			
2	アスベスト対策			-	-	-	-			
3	ダニ・カビ等			-	-	-	-			
4	レジオネラ対策			-	-	-	-			
<b>4.2 換気</b>										
1	換気量			3.0	0.40	3.0	0.38			
2	自然換気性能			3.0	0.50	3.0	0.33			
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33			
4	給気計画			-	-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>										
1	CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-			
2	喫煙の制御			3.0	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1	広さ・収納性		管理室9.14㎡	4.0	0.40	4.0	1.00			
2	高度情報通信設備対応		CAT5E	3.0	-	4.0	0.60			
3	バリアフリー計画	●		3.0	1.00	-	-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1	広さ感・景観			4.0	0.30	4.0	0.40			
2	リフレッシュスペース			-	-	3.0	0.50			
3	内装計画		3項目、4項目該当	4.0	1.00	5.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>										
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.30	-	-			
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-			
3	衛生管理業務			3.0	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震</b>										
1	耐震性			5.0	0.48	-	-			
2	免震・制振性能		免震構造	5.0	1.00	-	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1	躯体材料の耐用年数		等級3	3.5	0.33	-	-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		5.0	0.23	-	-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			2.0	0.09	-	-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08	-	-			
6	主要設備機器の更新必要間隔		2種類以上、C以上を使用	4.0	0.15	-	-			
				3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性				3.2	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3 電気設備		②	節水器具、二層式受水槽	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり						3.2	0.50	
1 階高のゆとり			階高2.91m			4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ						2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30			3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			14ポイント	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.6
1 建築物の熱負荷抑制			省エネ等級4	5.0	0.40			5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			給湯器エコジョーズ	5.0	0.40			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				5.0				
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無					-			
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		仕上げ材の分別可能	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤			ノンフロン採用	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	水セメント比50%以下、鉄筋被り厚確保	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		適切な駐車台数の確保	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	1.00			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				1.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 眩光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**  
 (仮称)サンシティ安城大東町

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011v.1.4\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	4.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) サンシティ安城大東

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>計画地は、弘法通りの交差点に面し、交通量も比較的多く、近隣は低層の閑静な住宅地である。周辺建物と調和しながら、街のランドマークとなるデザインとし、中低木や緑地を設け、心地よい空間を提供する。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物と敷地境界との間に緑地や中低木を多く設け、エントランス廻りにはシンボルとなる高木を配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>あいくる材、エコ商品、リサイクル商品等の利用に心がける。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。また、南側道路幅が4mと狭いため、敷地内を車路として公開利用できるようにしている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>